

令和4年善光寺前立本尊御開帳記念

みょうこうどう あ み だ さんぞんぞう

妙高堂阿弥陀三尊像

せきやまじんじゃどうぞうぼさつりゅうぞう

関山神社銅造菩薩立像

関山神社
秘仏御開帳

阿弥陀三尊像



くだら

百済伝来

銅造菩薩立像



主催：関山神社

会 期 令和4年5月21日（土）～6月12日（日）

時 間 午前10時～午後4時

拝 観 料 500円（高校生以下無料）

交通案内 えちごトキめき鉄道関山駅より徒歩15分

上信越自動車道中郷ICより10分、妙高高原ICより15分

団体参拝等のお問い合わせ 氏子総代 今井茂 (090-9309-4275)



▲妙高山と善光寺の関係が妙高市のホームページで紹介されています。

御開帳仏と「山」の雪形について

御開帳期間中は、次の仏像を拝観することができます。

【善光寺式三尊像】 中尊：新潟県指定文化財、両脇侍：市指定文化財

江戸時代まで妙高山の本尊として山頂の阿弥陀堂に安置されていた善光寺式の阿弥陀三尊像。当時は「妙高山如来」と呼ばれ、一年に一度の登拝行事（信仰登山）のときにのみ参拝することができました。

現在の三尊像は、中尊が鎌倉時代、両脇侍が室町時代以降に造像されたものですが、古くから木曾義仲公が妙高山頂に奉納した念持仏として信仰されてきました。

【銅造菩薩立像】 国指定重要文化財

江戸時代まで関山権現（現関山神社）の本尊としてまつられていた聖観音菩薩像で、明治時代から秘仏とされています。

6世紀後半（飛鳥時代）に朝鮮半島の百済で造られたと考えられ、その細部の特徴は国内で最初に造られたとされる法隆寺夢殿の救世観音像などに受け継がれています。本像は善光寺の絶対秘仏と同じ三国伝来の百済仏で、学術研究の分野において、わが国の仏像史の原点に位置付けられている重要な仏像です。

御開帳と合わせて、霊峰妙高山を借景とした庭園をご覧ください。5月後半になると、妙高山に「山」の字の雪形が現れ始めます。



写真左：【旧関山宝蔵院庭園】

国指定名勝。室町時代後期には存在したとみられる妙高山信仰を主題とした寺院庭園。

写真上：【山の字の雪形】

妙高山の山頂付近に現れる「山」の字の雪形は、阿弥陀三尊の象徴とされています。



関山神社、妙高堂（通称：関山善光寺）アクセスマップ

駐車場案内

※詳しくは現地の案内板をご覧ください。

◇P1,P2：小型車専用

◇臨時駐車場兼バス待機場：P2 から関温泉に向かって約 400m

◇バスの乗降は P2 で行い、その後は上記のバス待機場へ移動してください。